

令和5年7月 教育委員会会議録

〈 開会 10時00分 〉

開催日	令和5年7月25日(火) 10時00分～11時40分
開催場所	半田市役所 庁議室
出席委員	教育長 鈴川慶光 委員 桂 優子 委員 新美 大 委員 久米宏和 委員 堀崎隆資
説明のため出席した職員	教育部長 森田知幸 学校教育課長 内藤 誠 主任指導主事 鈴木康弘 指導主事 高下隆史 給食センター所長 榊原秀夫 生涯学習課長 青木美希 スポーツ課長 加藤計志 スポーツ課主幹 長坂壮浩 図書館長 齋藤政樹 博物館長 関 正樹 南吉記念館長 遠山光嗣
事務局	学校教育課総務担当主査 羽根 広
傍聴者	5名
議案	(1) 令和6年度使用小中学校教科用図書の採択について ①令和6年度使用小学校教科用図書の採択について ②令和6年度使用中学校教科用図書の採択について
協議事項	(1) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
報告事項	(1) 「半田市の幸せになるための教育」強化週間の名称決定について (2) 寄附・後援願等について (3) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について (4) 半田市食物アレルギー対応委員会委員の委嘱について (5) 各種事業について ①「令和6年半田市二十歳の集い」について ②ヨット教室の開催について ③亀崎図書館音楽と朗読の集いについて ④新美南吉記念館の夏休みの行事について ⑤ピースあいち夏の特別展「新美南吉の生きた時代」
各課事務連絡	特になし

1. 前会の会議録の承認	<p>(事務局)</p> <p>6月定例会の会議録について概要説明 → 承認</p>
2. 教育長報告	<p>(教育長)</p> <p>6月の定例教育委員会から今日までの行事等について報告する。</p> <p>学校訪問については、7月3日の乙川東小学校、7日のならわ学園分校を最後に前半が終了した。どの学校もタブレットを使った学習を進めたり、新しい指導要領に沿った展開をしていたという印象がある。みなさん方もそれぞれ見学いただき、いろいろな視点からご指摘いただきありがとうございました。</p> <p>4日は第2回尾張部都市教育長会議に出席した。県教委からの報告事項等としては、中高一貫教育について、また、今年度から始まる公立高校のWeb出願について報告があった。各中学校ではWeb出願の説明等は済んでいるようだが、公立高校では初めての取組になるのでミスのないよう準備している。</p> <p>次にワーケーションに係る報告について。半田市においては9月から実施として保護者宛の通知を既に出した。実施していく中で課題点が見つければ修正をしていく。子どもたちが、申請をして休みを取って家族と過ごせるような、いい取り組みになっていけばいいと思うが、なかなか休めない保護者の方がいたりするといった問題も十分解決されたわけではないと考えている。</p> <p>最後に部活動改革に係る報告について。半田市としても来年9月から大きく変えるよう進めているが、国や県の予算的な保障や支援体制が見えてこないの、そういうところを訴えてきている。ただ、県としても国からの方針が明確には提示されていないので、回答に苦慮していた。中高一貫校、Web出願、ワーケーション、部活動改革のいずれも課題が多く、各市町教育長から県の担当者へ質問が相次いでいた。</p> <p>19日は学校運営協議会の情報交換会を開催した。コミュニティスクールとして、それぞれ地区の状況に応じて取組をしてくださっているが、新たな取組の情報共有をすることで、他の地区でも取り入れられるものは取り入れて、地域とともにある学校づくりを引き続き進めていきたい。</p> <p>関連して、8月23日に愛知県教育委員会が主催する「地域とともにある学校づくり 愛知フォーラム・研修会 2023」について紹介する。安城市で開催され、定員が会場に250人、オンラインでも500人となっており、そういった大きな場で半田市が事例発表をする。</p> <p>21日に令和7年度に開校する中高一貫教育の具体化検討部会があった。主に六つの視点、一つ目が入学の選抜方法、二つ目が教育課程、三つ目が教職員の配置、四つ目が部活動、五つ目が給食、六つ目が学校名について検討している。今年度の11月に保護者向けの説明会を開催するというスケジュールは公表されているので、それまでに意見交換し、課題を整理していく。</p> <p>7月中旬から、郡大会が始まっており、トーナメントもだいぶ進んでいる。バレーボールが今日、準決勝と決勝となっており、半田中と乙川中の男子が残っている。また、情報が届いている限りでは、乙川中は軟式テニス男子、バドミントン男子、柔道女子が県大会出場、ハンドボール男子は優勝して県大会に出場する。亀崎中はソフトボールが準</p>

	<p>優勝。成岩中は軟式テニスの女子が優勝して、サッカー男子は今日決勝戦。他にも新体操、水泳、柔道などで県大会に出場する子がいる。剣道や卓球はこれから始まる。</p> <p>いくつかの競技を見に行ったが、やはり子どもたちが一生懸命やっている姿、勝って喜んでいる様子、負けて泣いている様子、保護者の方がたくさん来て応援している様子、どれもいいと思う。今後、部活動改革に伴い、こういったことも少しずつ変わっていかざるを得ないと思うと少し残念な気持ちもあり、こういった形が残せる方法も考えていきたい。</p>
<p>3. 議題</p> <p>■議案</p> <p>1) 令和6年度使用小中学校教科用図書の採択について</p>	<p>(教育長)</p> <p>半田市教育委員会会議規則第15条の規定に基づき本定例会議案第1号及び報告事項第3号の取扱いについて諮ることとする。</p> <p>議案第1号「令和6年度使用小中学校教科用図書の採択については、知多教科用図書採択地区協議会から教科用図書の採択にかかわることについて、8月31日までは非公開とすることの要請が届いている。そのため、非公開として審議したいと考える。</p> <p>また、併せて報告事項第3号「児童生徒の交通事故・問題行動等について」も個人情報を含む案件であるため、非公開としたいがよろしいか。</p> <p>(全委員)</p> <p>異議なし</p> <p>(教育長)</p> <p>それでは、議案及び報告事項を非公開とする。</p> <p>・傍聴者は非公開事案の間、一時退席。</p> <p>※教科用図書採択の審議内容については一時非公開（8月31日まで）</p>
<p>■協議事項</p> <p>1) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>始めに、この取組の趣旨について説明する。この点検・評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づくもので、教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理と執行状況について点検・評価を行い、その結果について報告書作成、議会提出、公表すること、とされているものである。また、点検・評価にあたっては、学識経験者の知見活用を図ること、とされている。</p> <p>そこで、今回、令和4年度の本市教育委員会所管の主な施策・事業について、私たち自身で自己点検・自己評価を行ったのち、元・日本福祉大学の林克次先生と名古屋学芸大学の浅田謙司先生より、外部評価をしていただきましたので、その概略について説明する。</p> <p>なお、評価は、S・A・B・C・Dの5段階評価で、その基準は記載のとおりです。点検・評価の内容は、Sが妥当性・効率性・有効性に優れ、十分な成果が上がっている、Aが妥当性・効率性・有効性に優れ、改善の余地はあるが成果が上がっている、</p>

Bが成果を上げるため改善する必要がある、Cが成果が上がっておらず、抜本的改革が必要である。または特別な事由などにより実施することができなかった、Dが成果があがっておらず事業の廃止検討の必要があるものとしている。

学識経験者の二人からいただいた意見は次のとおりである。

全体については、

- ・「いじめ・不登校対策」、「特別支援教育」、「切れ目のない支援」など、一人一人を大事にする教育に取り組み、子どもたちへの愛を感じた。
- ・市民が生涯に渡り学習し、よりよい自己実現に向けて日々を送ることができるよう、市役所が分野を超えて全庁的に連携し、学びにとどまらず人格を高められるような政策を継続的に打ってほしい。

次に個別事項として、学校教育課については、

- ・ICT教育に係る全体的な能力向上を期待する。また、チャットGPTへの対応について今後の検討課題としてほしい。
- ・医療的ケア児やLGBTQなど、特別な支援を要する児童生徒には丁寧に対応できている。

学校給食センターについては、

- ・アレルギー対応手引について評価する。
- ・新学校給食センターの稼働後のことについて、現センターは、第1センターと第2センター、二つの施設から成り立っているところ、新センターは、これらが統合されて一施設の位置付けとなることから、愛知県の配置基準上、栄養教諭が減ったとしても、子どもたちに影響が出ないように工夫してほしい。

生涯学習課については、

- ・「まちなかアート」や「畳でコンサート」は、身近な場面で文化芸術に触れることができる事業として非常に高く評価できる。
- ・「まなびとゼミ」は、講師の方のPRや、受講した方の感動が伝わるような情報発信により、輪が広がっていくといい。

スポーツ課については、

- ・eスポーツは、「実際に体を動かしてスポーツに取り組めない人たち」にも門戸を広げる可能性があるので、引き続き取り組んでほしい。
- ・部活動改革は、半田市の地域スポーツクラブの先駆的取組の経験を生かして進められるとよい。

図書館については、

- ・分類シールの変更のような改革は勇気のいることであり、今後も利用者目線で取り組んでほしい。
- ・目標値に達していない部分もあるが、全体としては電子図書館や学校との連携など工夫した取り組みが行われており、評価できる部分も多くある。

博物館については、

- ・山車を始め、伝統を生かすことを大事にした事業展開ができている。
- ・半田といえば山車文化。本年開催の山車まつりの成功に向けて取り組んでほしい。

	<p>新美南吉記念館については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半田市の文化財を素材に、市民の暮らし・生活の向上を目指して実践していることが実感できる。 ・目標値が高かったことにより自己評価が厳しいため、評価方法を検討してもいいのではないか。 <p>とのご意見をいただいた。今回まとめた報告書については、今後は議会へ提出し、ホームページで公表する予定である。</p> <p>(教育長)</p> <p>日頃から委員の皆さん方からいただいているご意見を参考に実践してきたことを評価していただけたと思う。</p> <p>特に質問等ないため、今後は先ほど事務局が申したように、議会へ報告し、ホームページで公開する。</p>
<p>■ 報告事項</p> <p>1) 「半田市の幸せになるための教育」強化週間の名称決定について</p>	<p>(主任指導主事)</p> <p>各校で、児童生徒に名称案を募り3～5案に絞り、その後、教育委員会で5案に絞ったものの中で、児童生徒による投票を行った。令和5年7月7日(金)から行われた投票の結果を報告する。</p> <p>総得票数 8,010 票のうち、「半田幸せ週間」が 2,151 票 26.9%、「半田ハッピーウィーク」が 2,211 票 27.6%、「幸せいっぱい週間」が 1,382 票 17.3%、「ハッピーレベルUP週間」が 976 票 12.2%、「みんなでハッピー活動！ハピ活週間」が 1,290 票 16.1%となった。</p> <p>結果の確定方法については、全得票数で確定し、僅差の場合は教育委員会の判断によるとしている。今回の結果から判断するに、「半田市の幸せになるための教育」強化週間の名称は、「半田ハッピーウィーク」としたい。</p> <p>なお、この決定については、各校を通じて児童生徒にも通知する。</p>
<p>2) 寄附・後援願等について</p>	<p>(学校教育課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 団体より寄附。 <p>(内訳：デジタルカメラ(ミラーレス一眼))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 件の共催事業を許可。 ・27 件の後援名義を許可。
<p>3) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について(非公開)</p>	<p>(指導主事)</p> <p>令和5年6月24日～7月21日の交通事故・問題行動等について。</p> <p>交通事故：3件</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月8日(土) 1件 7月17日(月祝) 1件 7月19日(水) 1件 <p>問題行動(被害)等：3件</p>

	<p>7月6日（木） 1件 7月13日（木） 2件 交通事故以外の事故：1件 7月4日（火） 1件 学校等被害：0件 不審者情報：0件</p>
<p>4) 半田市食物アレルギー対応委員会委員の委嘱について</p>	<p>(給食センター所長)</p> <p>半田市食物アレルギー対応委員会は、学校給食における食物アレルギー対応の方針を検討するとともに、児童生徒の学校給食における食物アレルギー対応に関する専門的な役割を果たすことを目的とした機関である。</p> <p>委員は、要綱の規定により、学校関係者、医療関係者、その他教育委員会が必要と認められた者の中から、教育委員会が委嘱又は任命することとしている。</p> <p>任期については、要綱の規定により2年間。ただし、役員の交代など変更があった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間となる。</p> <p>今回は、役員の交代や人事異動に伴う者7名の委嘱となり、前任者の残任期間となる令和6年8月31日までをお願いするものである。</p> <p>なお、各委員は、名簿の所属・役職等の欄に記載の所属団体の役職者の方をお願いをしている。</p>
<p>5) 各種事業について ①「令和6年半田市二十歳の集い」について</p>	<p>(生涯学習課長)</p> <p>今年の1月に民法改正後、初めてとなる二十歳の集いを開催した。半田市は引き続き20歳の年度に実施する。</p> <p>開催日程は令和6年1月7日（日）、開催場所は雁宿ホールとし、企画運営は半田市二十歳の集い実行委員会が行う。</p> <p>コロナ禍においては、午前・午後の2部制としていましたが、実行委員会や出席者から1部制を望む声もあり、今年の1月は従来通りの1部制で開催し、大変好評だったため、今回も1部制で開催する。</p>
<p>9) 各種事業について ②ヨット教室の開催について</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>「ヨット体験教室」は、半田市教育委員会主催で、9月10日（日）に、半田市ヨットハウスを拠点とし、衣浦港で開催する。</p> <p>半田市内在住の小学校4年生以上から中学生までを対象とし、定員20名で実施する。申込方法は先着順で、8月4日からメールまたはスポーツ課窓口での受け付けとなる。</p> <p>参加料は保険代込みで500円、講師は半田市ヨット連盟の会員の皆さまをお願いしている。</p> <p>教室の内容は、艀装、ロープワーク、体験帆走となる。</p> <p>今後、市報やHPなどで参加者を募り、本事業を進めていく</p>

<p>9) 各種事業について ③亀崎図書館音楽と朗読の集いについて</p>	<p>(図書館長) 令和5年9月10日(日)午後2時から、亀崎公民館2階のホールにおいて、開催する。 「耳で楽しむ名作」をコンセプトに、泉の会による、南吉や宮沢賢治、森鷗外などの作品朗読と、作品朗読の合間に、潮音(しおね)オカリナによる、耳に心地よいオカリナ演奏を楽しむ会となる。 定員50名で、8月15日(火)から29日(火)まで亀崎図書館窓口または電話で申し込みを受け付ける。 参加費は無料である。応募者多数の場合は、抽選となる。</p>
<p>9) 各種事業について ④新美南吉記念館の夏休みの行事について</p>	<p>(新美南吉記念館長) 8月11日(金祝)・12日(土)にお話し会、紙芝居、簡単な絵本づくりや写真たてを作るワークショップなどを行う。 また、既にお知らせしているように、13日(日)には開催中の絵本原画展に関連して、絵本作家長野ヒデ子さんとお嬢さんで幼児への音楽教育を専門にされる長野麻子さんによる対談講演会をアイブラザ半田で開催する。 今週末には生誕祭があり、生誕110年事業はピークを迎えるが、それ以降の夏休みも南吉記念館で楽しんでいただきたい。</p>
<p>9) 各種事業について ⑤ピースあいち夏の特別展「新美南吉の生きた時代」</p>	<p>(新美南吉記念館長) 19日(水)の中日新聞で1面と中の面を使って、大きく報道されたので、ご覧になられた方も多と思うが、7月18日(火)から9月9日(土)まで名古屋市名東区の戦争と平和の資料館ピースあいちで、新美南吉に関する特別展が開催されている。 ピースあいちは、戦争の資料や記録を集め、展示することで、平和について考えてもらうことを目的にした民設民営を資料館である。 今回の企画は、新美南吉生誕110年を記念し、ピースあいちから申し出があったもので、新美南吉記念館からは肉筆資料のレプリカ、初版本、写真を提供している。 22日(土)には、元新美南吉記念館長の山本英夫先生がピースあいちで講演された。 南吉は大人たちから日露戦争について聞いて育ち、東京で2・26事件を間近に見て、日中戦争、太平洋戦争の時代を教師として過ごした。彼自身は平和を愛する一方、人間は戦争を放棄できるほど進んだ生き物ではないという現実認識も持っている。 今回の展示が、理想と現実のなかで生き、創作した南吉の葛藤に触れてもらうきっかけとなればと思う。また、名古屋での南吉展自体、生誕百年以来10年ぶりとなるので、南吉を名古屋でPRするよい機会と捉えている。</p>

教育委員からの
意見提言等
(1)

(桂委員)

学校訪問で乙川東小学校を訪問させていただいた。個別最適な学びの実践として、自由進度学習に取り組まれていて、すごく興味深かった。多めの時間を割いて5年生の算数を見学した。小数の割り算をやっていたが、子どもたちが自由に席取りをして、それぞれが自分たちのペースで学んでいた。近くにいた男の子2人は、1人はあまり理解していないようで、もう1人は「小数点はどうやって移動するんだっけ」などと、相手に考えさせながら、どちらも楽しそうに取り組んでいた。あとで先生に聞いたところ、2人ともそれぞれに課題のある子だとのことだったが、自由進度学習の可能性を感じた。

また、先生方も子どもたちも手応えを感じているという話だったので、今後も引き続き取り組んでいただくとともに、こういった新しい取り組みが各場面で情報共有されていくといいと感じた。

(学校教育課長)

この乙川東小の取組は、今後、進めていきたいと考えているものである。AI型教材「Qubena(キュービナ)」をモデル校として試験的に行っている学校のうちの一つで、見学していただいた授業は、このQubenaを使ってもいいし、あるいは教科書を使ってもいいし、通常の紙のドリルを使ってもいいし、どの教材を使ってもいいので、みんなで自分のやりたいように単元、今回では算数の小数点を勉強していきましょうというものだった。現時点で一番進んでいるのが乙川東小学校だと思っている。

Qubenaの使い方については、ICT教育未来創造協議会を始め、いろいろな部会の代表者が集まる場で情報共有し、今後も進めていきたい。

(指導主事)

Qubenaの検討にあたっては、ICT教育未来創造協議会の下部組織として活動しているクリエイティブチームが活躍している。このチームは、各中学校区から1～2人を選任しているもので、今年のテーマとして「授業におけるICTの利活用」を大きく掲げている。自由進度学習についても、乙川東小の先生に入ってもらい、市内に展開できるよう考えていきたいと思っている。ある程度まとまったら改めて紹介する。

(桂委員)

他に聞いたこととして、やはり学びのペースが全然違う中で、進む子はどんどん進んでいくが、その子たちがわからない子に向けて解説動画を作ったりすることもあるとのこと、一人一人のやり方、ペースで学びを進めていると実感した。紹介のあったチームの先生を中心に検討していただき、取組が広がっていくことを楽しみにしている。

(教育長)

自由進度学習に限らず、グループ学習の中でわからない子に教えるといった場面は増えている。ICTについても、慣れる段階から、いかに活用するかという段階に一步進んだと感じている。情報機器の活用に堪能な人たちを中心にチームを組んで、研究して情報発信するよう進めているので、期待していただきたい。

<p>教育委員からの 意見提言等 (2)</p>	<p>(新美委員)</p> <p>半田市の幸せ教育のことについて、先ほどの強化週間の名前「半田ハッピーウィーク」は、子どもたちが自分たちで選んで、非常にわかりやすくいい名前になったと感じた。</p> <p>強化週間に限らず、今現在の幸せ教育の進捗状況や、各学校の取り組み状況がどのようにになっているかについて、聞かせてほしい。</p> <p>(主任指導主事)</p> <p>学校に依頼していることの一つとして、幸せ教育に関する授業の板書の写真がある。まだ多くは集まっていないが、道徳を中心に、数件データで提出されている。国語の詩の授業で取り上げてくださった先生もいる。やはり扱いやすい教科とそうでない教科があると感じている。</p> <p>また、他の調査として、幸せ強化週間の学校公開を、いつ、どのような方法でやるのかを確認している。多くは授業公開をするようだが、次回には資料を提示できると思う。他には、幸せに関する講演会を実施し、保護者と子どもとでワークショップを実施するという声もある。また、PTA も 10 月 1 日に PTA 主催で講演会をすると聞いており、学校の教員だけでなく、保護者にも広がっている。</p> <p>全ての学校に教育目標の中で幸せを位置づけてもらっていることも含め、少しずつ広がり、進んでいるかなと感じる。</p> <p>(新美委員)</p> <p>ありがとうございます。幸せ教育については 1 年目であり、進捗状況に多少の差はあってもいいということでスタートしていると思うので、いろいろな学校の取組が刺激になって広がっていくといいと思う。</p> <p>PTA の方でも進んでいると聞いて、頼もしさを非常に感じた。やはり保護者も幸せ教育について感じてもらえる、市長のねらいが達成できるかなという気がしたので、よろしく願います。</p>
<p>教育委員からの 意見提言等 (3)</p>	<p>(堀崎委員)</p> <p>私がお願いしたいのは、不易の部分。相談員としていろいろな学校に関わらせてもらっているが、特に少経験者、講師、初任者の授業力がついていきにくい。それによって、子どもたちが落ち着かないことが多々ある。1 ヶ月に 1 回程度の頻度で訪問する中で継続してアドバイスしていくと、だんだん授業力もついてきて、授業も落ち着いてくると感じることもあるが、なかなか学校現場に人が足りない中でどうしたらいいのだろうか悩む。</p> <p>私のような巡回の相談員を増やしてほしいという宣伝ではないが、やはり学校専属で見えあげられるような仕組みを考えると、結果として子どもたちにとっても幸せになるのかなと思う。</p> <p>教務主任や校務主任が学級担任をやっている学校もあり、また、教室から飛び出してしまふような子がいるとヘルプで現場へ出て行ったりしなければならず、先生を見てあげて、育てる余裕がない。人がいない中で、難しいとは思いますが、何かそこを補ってあげられるといいなと思う。</p>

	<p>(新美委員) 退職された先生方の OB 会のような組織はないのですか。 そういったボランティアの組織があって、そこに何か要望があればあっちこっちと手助けをできるような会があるといいなと思った。</p> <p>(堀崎委員) 例えば、エプロン先生のように、学校運営協議会にそういった OB の人たちを入れて、学校から要請があったら入るような仕組みができるといいかもしれない。</p> <p>(教育長) 確かに、なかなか学校の中で少経験者や初任者が育てられないような状況はある。例えば、先ほど言われたように、校務主任、教務主任の先生たちが担任を持たざるを得ないような状況も一つ。新任には指導教員が付くが、少経験者に対する指導がもっとできるといいなとは感じている。 半田市としては、少経験者を対象に月に 1 回教育委員会主催で自主研修会ということをやっており、先月は 30 人程度参加した。少しずつ参加者は増えている。こういった会に参加していただくことも一つの手段だが、堀崎委員がおっしゃるように、日頃の授業を見て助言できるような環境作りも考えていかなければならない。 退職された先生方については、退職後も関係機関でいろいろな役を担っていたり、まだ仕事をしていたりする人も多いが、どこかでそういった方がいれば、またお手伝いいただけるような仕組みづくりも必要と感じる。 貴重なご意見として何っておきたい。</p>
次回開催等	<p>(事務局) 8 月定例教育委員会 日時：8 月 17 日 (木) 10 時 00 分～ 場所：半田市役所 4 階 庁議室</p> <p>(教育長) 7 月定例教育委員会を終了する。</p>

〈 閉会 11 時 40 分 〉